常磐毎日

発行所
平市字町75
常磐毎日新聞社
営業部専用 1、210
編集部専用 1、269

賀正

株式会社 常磐毎日新聞社
取締役社長 鈴木正男
外社員一同

新しい年を迎えて

交通と港灣の整備促進
第二の東浜化へ總力あげよ

衆議院議員
高木松吉

昭和三十三年の年頭に除し、郷土の皆々様に御挨拶の機会を得ました事は、私の最も光栄とする処であります。

戦後十有三年、皆々様の御努力により、経済の興隆と民生の安定に驚異なる進展をみました事は、誠に慶賀に堪えません。

併し乍ら、戦後の数少なる国土に過大なる人口を擁し、経済自立の目的を達成する事は、何と申しても国土の保全と、開発利用を積極的に推進する事で、誠に緊急を要する重要施策であります。

私は曾嘗から選挙区の国会議員として、何をおいても先づ地方郷土の開発こそが優先されるべきものとして、その信念の下に行動して参りました。この為には先づ国民経済発展の基礎をなし、産業経済外貿に大動脈を形成する交通機関の拡充であり、常磐線の複線化並に電化の実現に促進努力致す考えで居ります。

更に国道、地方道の改良、舗装就中六号国道の舗装問題が急務であり、その達成に力を傾け皆々共の効果を挙げて参った次第です。特に常磐地区総合事業計画が、将来の東北に於ける京浜工業地帯として躍進を期待される の巻に当り、豊富な地下資源を持つ常磐地区の開発を促進し且つ、その資源と活用と貿易振興の必要性より、本県唯一の小名浜港湾の拡充強化は極めて緊急を要するものであります。かゝる重要文化の進歩発達、人口増加に伴う新市街地の造成、既成都市の形態の改造なる都市計画事業については、特に注目して、常磐各都市計画事業に強力なる施策を傾倒して居る次第です。

併し又、常磐地区が豊富なる地下資源も旧時に行われた地殻変動等から各水系の上流区域はもとより、其の流域周辺も深年被害をみ、一たび河川水溢れれば地下坑内に流入、数多くの災害発生の状況であり、此れが砂防わが国においては、夙に世界平和の確立と人道上の見地より原水爆の禁止を強く提唱し、且つ総理大臣自ら再度に亘り、かつて戦場たりし各地を歴訪してその親善の回復に努力されたことは、真にこの大使命に基たるを理解したものとして高く評価さるべきものであろう。

思うに「戦」は敵を滅亡し、世界の平和と人類の福祉を無辺の安寧に帰すべく努力すべき誠しとしての暗示を強くうける。

偶つて本市の行政亦私が既任当初より国想とする「平和にして明るい市政の建設」。常々その実現を見つつあることは洵に喜びに堪えない。これ偏えに市民各位の心からなる協力によるものと感銘いと深いものがある。

新年度においては更に一段の努力精進を重ね、既に約束されたる諸案件の即時実施に万全を期すと共に、時代に即応する新施策を多分に織り、以て市勝の興隆と市民の福祉増進とを図りたいと念願して止まない。茲に市民各位の多幸と一層の協力を願んで年頭の辞とする。

東北一の工業都市へ
港灣施設も更に擴充

磐城市長
三代義勝

内外共に新しい「躍進」昭和三十三年の年頭にあたり市民の皆様とともにめでたく新春を迎ぎたいと思います。

不肖私、市政を担当致してより一年有半不馴れな自治運営と日夜微力を尽して参りたのであります。が、この間大過なきを得ましたことは、偏に皆様の絶大なる御支援御協力の賜であります。衷心より感謝致しております次第で御座います。

更に昨年は不肖私議員である中国北京市長の招聘により北日本港湾都市々長団の一員に加わり清新の気溢れる新生中国の躍進復興状況並に日中貿易促進のため中国を訪問して参ったのであります。

懇切なる歓迎を受けました事は、日本国とは全く相異して新生の建設に燃える中国の国民性と国情は実に生きた中国の姿でありまして唯々敬服のほかなく、私等市政を担当する市長と致しましてはまことに大きな収穫でありました。それだけにこの視察ができましたことは日頃皆様の御熱意と御後援の賜と重ねて御礼申上げる次第であります。

嬉うに昭和二十九年三月磐城市の誕生を見まして早くも四年を迎えんとし去る五千市民の融和と団結のもとに輝く躍進なる新生の上に市勢の発展向上を来し特に常磐地方総合開発の動脈として、昭工港湾都市として躍進の活況を呈しておりますことは市民の皆様とともに誠に御慶に堪えないところであります。

今や本市はこの画期的発展に伴いまして教育文化に産業経済に将又社会福祉の面に於ても当然なさねばならない施設や幾多の事業が山積しておる現情であります。

が御承知の通り地方自治体の財政窮乏は深く深刻化し当市に於きましても更に容易ならざる段階にあるのであります。

市政の発展と市民の福利増進のために凡ゆる創意と工夫により不可能ならしめる決意実行に移したいと考えております。

市民福利の増進

平市長　諸橋久太郎

天行健也。茲に昭和戊午の新春を迎え得たことは真に御慶に堪えない。今や世界は平和と民族自決の方向で新しく飛躍する段階に到達している。かの世紀を画する人工衛星の成功も決して将来に凄惨を予感させるものであってはならない。必ずや平和的な明るい月影のきざすものとして育てたくべきである。かくしてライカの宇宙飛行に刺じたことも亦意義あることを信じたい。

反省と協力こそ
飛躍への道

鈴木正男

年頭新春を迎ぎ御挨拶申し上げます。常磐総合開発も漸々実現の域に入り第二の京浜地区としての偉容をみる日も遠くなくなった今日今年こそは色々と反省して強い協調の精神が要求されて居ることに深い関心が持たれる。大小の諸問題解決と然も問題解決に急テンポが要求される場合、どうして各界各層の協調の上に立った強大な推進力が絶対必要条件になる。大乗的に物事は処理すべきで、個人本意の独善的な主観主張や行動の中からは社会の進歩発達は望まれないし、むしろ大きな障害となる。また個人本意な独善主義的言行は民主主義の本質からしても許されない。小我を捨て大同につくの大雅量こそが最も要求される諸問題解決の鍵であり、基本的問題と思われる。こんなことを考えてみると幾多反省すべき大小の問題が思い浮ばれる。

各市町村に起きた諸問題解決にも大いに考え直さなければならないことが多い様だ。勿論個人権の尊重や、不当な迫害による問題の解決は思いもよらないことであるし、許されるものでもないが、各々が強く反省して協調すべき多くの問題点があるようだ。また産業開発、教育文化向上部門に於ても考えさせられたことがあまりに多すぎる日教組の動行やPTAの有り方等は、直接子弟の教育に関係するだけに問題考えさせられる問題がありそうだし、文化国家再建の基本的問題が含まれて居るように考えられてならない。

地方選挙の跡を見ても指導的立場にある者や各

鈴木社長

団体に於ても考えさせられたことがあまりに多すぎる。政党と人物を見極めて正しく選挙権を行使することが国民の福利でもあり義務でもあるし、正しい民主主義のルールもここから生れる。

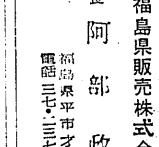
人工衛星を打ち挙げたソ連の国柄、即ち超人的な科学の発達の陰に働く民衆を考えると面白い。何となく古い日本の幕藩時代を浮んで来る。あの城の、あの大きい石は一体誰が何処からどんな方法で運んで来たのか、其の時代三千万足らずの民衆の生活はどうであったのか、其那の万里の長城時代も同じこと。「勝つまでは」の合言葉で東条軍閥時代の日本人がのこ食わず寝るものも寝ないで、必勝の夢に酔はせられたこと忘れ難い出来だと苦笑物だ。

最高文化水準を誇るアメリカも人工衛星打ち揚げでは遅れてしまった。あらゆる努力と犠牲を払って追いつき追い越に専念するだろう。谷間の日本はどうなるか、原水爆、人工衛星の平和的利用の夢はどうなるのか、世界平和と人類幸福の為強い反省と協調の精神が要求される。この謙虚な反省と協調こそ、飛躍への基礎である。

新市町村の建設

溝井義男

終戦後早くも十余年の歳月は流れる余曲折であった当時を回顧し、あの混乱と虚脱と苦難の基礎は史上その類例を見ない苦難であったが、顧するところ民族再生の意欲は時勢の推移と共に真の民主化の基礎を確立して、意国家の回復と国際信義に努め得たことは、洵に国の誇りとなる。



郡で県内華情に目を瞠ったれば地方自治制以来、一大革命として称せられた町村合併も予定計画を遂成して終止符を打ち、今後の重要課題として拡大された新市町村の行財政の規模にふさわしい総合計画の策定に鋭意努力を傾注し、新市町村の一体性を具現すべく関係各機関挙げて支援をしている次第であります。

既中、当地方は県内有数の常磐炭鉱の開発を中心とする各種産業の振興と福祉の整備に併せ鉱害復旧と福祉の整備に於いて、京浜地区の立地条件に基いて、京浜地区の再現を図るにふさわしい開発振興を示している現在今年こそより一層県民の皆様より付託を受け、職責の重大かつ大なることを思い、敬虔の意を新にするものであります。（石城財務事務所長）

× ×

よろめかぬ市へ

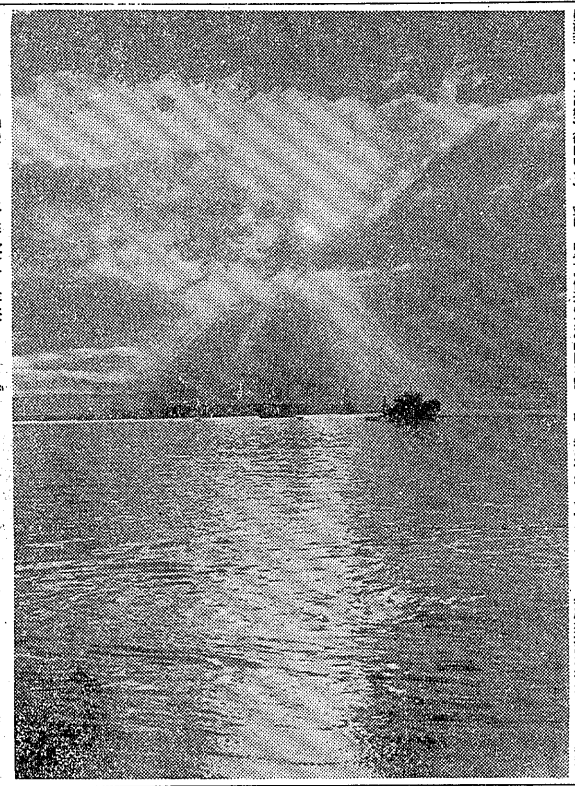
内郷市長　沼田一夫

昭和三十二年は「よろめき」の一年であったと良く言われるが、既往数を誇ったかと思う間もなく尽無常感に一瞬転落し、昭和二十九年度程迄には行かなくとも各種産業は漸次微力ながら伸びつゝあるが、内郷市に於ては常磐炭礦の東部開発と言う磐崎、鹿島坑の東部開発計画の発表に依り既に三十一年度に於て「よろめき」を発生、石炭資源無き跡如何すべきやに相当頭を悩ましたのは、ソ連の人工衛星打揚に依る米国の悩みにも比すべきものがあった。幸いにして炭礦当事者（経営者側と労組側）の良識に依り内郷炭礦も誕生、日一日と生産向上し炭況の良好と相俟って此処四、五年は考えも余裕を得、しかも矢張者、生活設備者の数も少が漸減の傾向にあることは、日本経済全体としては「よろめき」の一年ではあったが比較的しっかりした足取りで一年を送り得たのは不幸中の幸であった。

しかも三十二年即初以来四十数件の火災にも不拘市民の沈着と消防、警察の不眠不休の活動に依り放火犯人も逮捕され、鉱害復興に協力を得たことは市民の民力の如何に大であるかを天下に示したものとして時評すべき新年を迎えて新しい希望が湧くの当然とは言え、基本条件には変りがない。即有限の地下資源は既に掘り尽され炭礦都市としての命脈は幾何ぞ無いと言う事実である。国策はこの事実に立脚して石炭無き跡の内郷市を如何にして発展させ、更に東北開発に伴う常磐地方の総合開発に寄与し従来以上に市民の良き生活を享受し得るかと言う事に帰結する。今日迄百年、石炭都市として栄から町に、町から市と人口の増加に伴い発展したが其の大きな部分を占めた磐城炭礦の経営方針等、当市の内容は他市町村に比して極めて貧弱で決して裕福なそして文化的な施設を備えた地域では無かった。

この遅れを取り戻して他市町村より良き社会施設の目標に向って進むことは容易ならざる研究であるが市民の之に対する熱意と協力の下に逐次難関を切り拓いて行くならば難事も容易に解決し得るものと確信して居る。

当地方は福島県に於ける最大の産業経済の中心地であり、人口密度も高いにも不拘一般人士の体育、リクリエーションに資する総合グランドの欠如と鑑み、一昨年年来石市当局と内郷市と常磐市の三市共同で磐城市グランドを設立すべく努力を続けて居るが今年こそ実現し度いものである。



御題「雲」　平警察署提供

昭和33年 謹賀新年 1958年

磐城市役所
市長 佐藤勝郎　助役 三中吉　収入役 田代義一　磐城市議会 議長 佐藤義一　副議長 長江瀬尻

勿来市役所
市長 古川賀一　助役 古川秀　収入役 伝三二　勿来市議会 議長 赤山津　副議長 野辺一男

常磐地方総合開発期成同盟会
会長 佐藤小吉　副会長 県知事 佐藤栄一郎　〃 平市長 諸橋久太郎　〃 磐城市長 三代義勝　〃 勿来市長 川賀一　常任事務局 事務局長 磐城土建 橋本一郎

平市役所
市長 諸橋久太郎　助役 伊藤秀吉　収入役 根本益利　平市議会 議長 大木信雄　副議長 泉村淳

内郷市役所
市長 沼田一夫　助役 黒田吉之助　内郷市議会 議長 菅本三郎　副議長 本田熊雄

常磐市役所
市長 磯野清治　助役 佐伯政夫　収入役 仲里勝利　常磐市議会 議長 越田和文雄　副議長 白石武太郎

衆議院議員 高木松吉　東京都世田谷区若林町一一九　電話(42)三五〇一

県議会議員 鈴木喜政　福島県内郷市内町猿堀　電話(平)一五八一

県人事委員長 蓮沼竜輔　福島県平市田町一九　電話七八七

平市議会副議長 木村淳　福島県平市鹿町一四　電話三〇九

磐城土建工業株式会社 取締役社長 強口唯七郎　福島県平市小太郎町三　電話五九・二四一・二八二

平市建設業組合 長谷川常吉

株式会社 加地和組 取締役社長 川和徳一　福島県平市鍛冶町三一　電話四六三・九七〇

好間商業協同組合 理事長 森永太郎　福島県石城郡好間村字山　電話三八

常磐炭礦福島県販売株式会社 取締役社長 阿部政右衛門　福島県平市才槌小路三〇　電話三七・三七・五〇八・二二六

平市議会議員 鈴木寅次郎　福島県平市白銀町一四　電話五八・一〇五八

平医師会長 鈴木正男　福島県平市田町七三　電話六一三

福島県知事登録(二)第57号 堀江工業株式会社 取締役社長 長谷川常吉　平市才槌小路 電319・513・1684

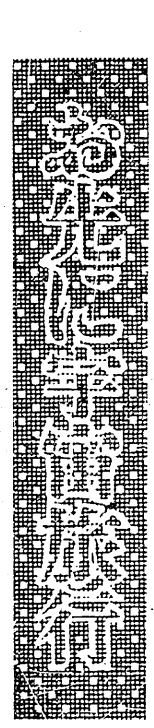
石城地方 市町村協議会 会長 平市長 諸橋久太郎　副会長 常磐市長 磯野清治一　〃 好間村長 鈴木栄　事務局長 橋本熊

釜屋 諸橋合名会社 福島県平市五丁目 電9・99・999

平市教育委員会 委員長 鈴木一郎　〃 遠藤寛　〃 久谷太　教育長 谷川専一郎

平商工会議所 会頭 山谷常吉　副会頭 長坂助　〃 専務理事 草間蔵

土木建築・消防ポンプ 東部産業株式会社 取締役社長 戸部光　専務取締役 菊地泰二郎　建設部平市新川町・自動車部平市田町



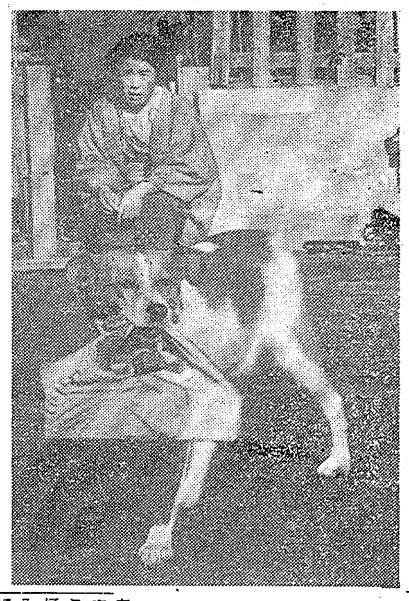
イヌ年にちなむ話

〝人語〟も大變上達

お買物なども大好き

磐城のチイ子さん

今年は戌（犬）年、犬にまつわる話は二十八年間の歳月を喫したといわれる高沢馬琴の大作「南総里見八犬伝」から水戸黄門でおなじみの犬公方（徳川五代将軍綱吉の別名）〝忠犬ハチ公〟となかく畜生である。　古来から犬は「三日飼うとその恩を一生忘れぬ動物」として人間教育の師匠とされ、「犬畜生にも劣る」という言葉まで生み落した話材ともなるほど主人を守った話や主人の後を追って鉄道自殺を遂げた話をよく耳にする。古今東西の名犬物語りは枚挙にいとまのないほどだが、人間社会の影であった宇宙旅行を人工衛星にのって成し遂げたのも犬（ソ連のライカ犬）であってみれば、お犬様様は戌年を迎えて一段とありがたい……。



チイ子さんは喜んで袋をくわえて家族とり一足先に帰宅した夫人たちが帰宅してみるとチイ子さんは居るが持って来たはずのイナゴが見当らないので不審に思っていると、庭先を一生懸命掘り返していたチイ子さんがしばらくしていイナゴの袋をくわえて来たという。先に帰宅したなが家に誰も居ないので探されては大変と、庭先に穴を掘って埋め隠れんなの帰るまで探されないように番をしていたのだという。

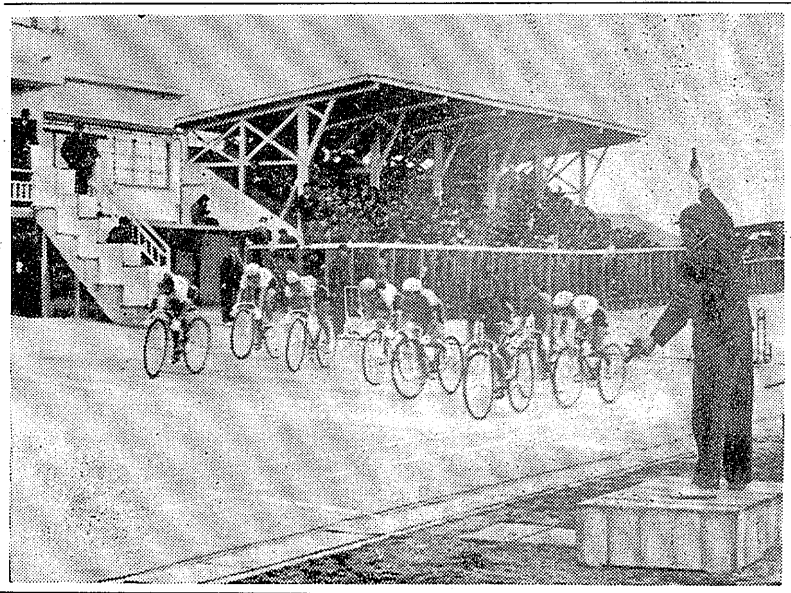
我家の愛犬

メリーちゃんの巻

白スピッツ犬メリーちゃんの話

内郷市宮町金扇荘岡田太郎さんがこの犬を飼ったのは三十一年の夏好間村から四千円でようやく手に入れ名前を〝メリー〟とつけ大切に育てている。昼は寝んな出かけて行くのでおくさんと二人きりで店の番、知っている人が来るとようだいくと人間手を出すあたりは人間と変るところがない。こゝの主人公岡田太郎さんと娘さんが毎朝出かけて行く時間には玄関まで見送りをしていつてらつしゃいと片手を振って姿の見えなくなるまで続けて。

さてメリーちゃんの日課はこゝから初まるわけでみんなが出かけたあとゆっくりおくさんと朝の食事、朝食は牛乳一合の三分の一に卵一個と御飯一膳をペロリとたべてしまう。あとはおみみさんの掃除の終るまで掃除の監督をしている。それからゆ



（上）は人語廻館中の磐城市のチイ子さん（下）は犬モチのメリーちゃん。

見習って下さい

犬猿の仲もこの通り

とかく仲の悪いことを話に「犬猿の仲」というが……これと逆に犬が猫を背中にのせたり相撲をとったり仲よく遊んでいるという「イヌ年」にふさわしい仲のよい話が磐城市にある。

磐城市湯本鮮魚商組合＝草野昭一さん（30）＝方に飼われているセパードの雌がこの犬、名前はアリボー。アリボーは生後約二カ月で草野さんに飼われるようになった。血統は父親が警察犬だったらしく、この人間様でも及びのつかぬ犬智恵には一目置かされたという。

近所の奥さんたちチイ子さんが一人で留守番のときなどバスが停る度毎に留守番所までかけ出して行って目の離れるまで待っている姿にすっかり感心、口をそろえてほめちぎっている。

つくりトイレに出かけるわけだが、このトイレもメリーちゃん専用で他の犬には絶対厳禁、出てくる時はきちんとある手拭いで手をきれいにふいてくる。（これは慶近おばさんとはかり）　あとは店に出て客の応待にあたるわけだが、メリーちゃんは中々のきりよくよしで近所の人達に大人気。写真撮影のとき先と間りてあまたでさすがのメリーちゃんもくたくたになるほど。昼食は二人きりでやはり一ぜんの御飯に手や野菜、ククワンを少……こうしているうち午後三時ごろ娘さんの学校の帰るのを待っているわけだが、ここでメリーちゃんの話を一寸紹介するとちんちん、丁だい、さよならおすわり、わんわん、いやくざつとこんなもの

さて午後三時まで一人で遊んでいるわけだが娘さんが帰って来ると寝んでとびつきじゃれはじめるわけで娘さんとは大の仲好、午後五時には御主人のお帰りで一だんと家の中がにぎやかさをます。何人といつてもメリーちゃんにとって楽しみは夕食だが、その前からきりにさいそくを始める。夕食は大勢のせいかやや御行儀が悪くなる。みんなのたべるのを一人くゞ廻って歩いて自分の気にいったものをもらいたべて皆な終ってからゆっくり自分の食ぜんに寄ってうしくみ、夕食は魚のおかずに御飯をたべてから食後の果物としてミカン、リンゴ、柿のうちいずれか一種が毎日つき終ってから寝る。この人間様でも及びのつかぬ犬智恵には一目置かされたという

写真は平競輪のスタート

愛される年

鈴木光四郎

明く新年を迎えて、天地は希望に満いている。昭和三十三年（西暦一九五八年）は、とよみの上では戌年、即ち犬に関係の深い年である。戌は十二支の第十一番目、時刻としては午後八時、方角では西北西を指している。戌年に当って、私は犬を歴史的に観察し幸多い年と祈るものである。

犬を飼らした時代

われわれの先祖が、鋤鍬や石炭はいうまもなく鉄や青銅で物を作ることも知らずにようやく石を砕いて斧やつるを作りはじめた頃学者のいういわゆる新石器時代の初めに、われわれの先祖は、早くも犬を飼い飼らすことに努力していた。それは今からおよそ一万年以前と推定されている。こうゆうことがわかるのは、地下にうずもれている人類の遺跡の中に飼されていたものと思われる犬の骨が一緒に見出されるからで、人と犬とが同じ場所に住んでいたと考えられるのである。

古代の人々の生活

その当時の人々の生活は、まず今日の未開人の生活に似ている。人々は粗末な小屋に、獣の皮をまとうだけの裸体で寝起きしていて、果実や狩をして捕った獣の肉をとがして食べていた。彼等は火打石と黄鉄鉱の破片を打撃の中で打ち合わせて火を作ることを知っていたにすぎなかった。

火は夜間の猛獣の襲撃を防ぐにも欠かすことの出来ないものであったから、男たちが狩に出ている間、女や子供たちは、火を中心にして皆り枝を積み重ねた風よけの陰で、絶えず新しい薪を補って行かねばならなかった。獲物があれば、たき火のところへ持ち帰って何日でも同じものを食べていた。食べられないところや骨は小屋の後の方に捨てては、また狩に出るのである。

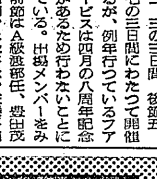
残りものの掃除夫

このような次第で小屋の後には、くさった肉や骨が積みかさなり、臭気がぷんぷんしていた。ところが、夜になると悪獣捨場へ何まきみいでかさな獣がしのんで来て、捨てられた骨や肉を持ち去るものがあった。不潔な残りものを きれいに掃除することになる。この悪獣なる獣、残り物の掃除夫――これこそ、今日われわれの思興だなとなっている犬の原始の姿である。

こうして人と犬との最初の関係が始まり、人々が気候のよい獲物のたくさんある住みよい土地を求めて小屋を移すと、これらの夜の侵入者もまた、その後から残り物の何いを慕うと同時に、人間の居る所を慕うようになったのである。

日本史上の犬

わが国に於て犬のことが史上に現われたのは垂仁天皇の八十六年といわれている。また丹波国桑田村の飼犬のこと、宏闘天皇の御代の犬養部のことなどが最も古いものである。



犬追物

騎馬にて犬を追射する儀式、竹垣で馬場を囲い、中に犬を放ちこれを追い射る。矢は鏑目、服装は折烏帽子に狩衣とし、正式には一手十二騎、射手の兜法と射法とによって貫不貫がある。白犬百匹十四匹を十四ずつ十五回に行う。弓馬鍛錬のための優れた武技として鎌倉時代に盛んに行われた。室町末期以後次第に衰えたが、江戸時代に三代将軍家光が再興し諸大名はこれに倣って盛んに行った。明治以後は全くすたれてしまったのである。

南総里見八犬伝

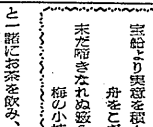
滝沢馬琴作、天保十二年上、日本文学史上に於ける最も雄偉なる作品であり、二十八年間の歳月を費したという。寛吉の役（西暦一四四一年）に蜂起し、その役で戦死した里見季基の遺兄義実の別絵略を中心としその間に義実の息女伏姫と犬猫とを母胎として生れ出でた八犬士の多彩なる活劇が描かれている。登場する八犬士には犬の姓がついているのも面白い。即ち犬飼現八、犬川荘助、犬塚信乃、犬坂毛野、犬田小文吾、犬阪毛野胤知、犬山道節、犬村角太郎などであり映画や演劇によって親しまれている。

犬公方

徳川五代将軍綱吉の別名である。綱吉は家光の第三子、四代家綱の弟、延宝八年、将軍家綱の嗣子となり江戸城西丸に入った。同年八月将軍宣下、将軍職を継ぐや好学の誉れが高く忠臣蔵を題材とする歌舞伎を禁じ、犬公方と呼ばれた。

謹賀新年

本年も相変らず



恋の道行く星を目ざし　宇宙ドライブして見たい
宝船より異意を積んで小舟をこぎ出す共稼ぎ
未だ咲きなれぬ蕾らくいすも　梅の小枝で笑をよぶ

昭和三十三年一月元旦

松乃家　竹本喜美太夫　芸妓一同

昭和33年　1958年　謹賀新年

飯野八幡宮　たかつき保育園　飯野盛男　平市八幡小路 電444

平家具建具工業組合　組合長 石山一治　副組合長 鈴木四男　〃 片寄小滝太

平市旅館組合　組合長 渡辺栄咲　副組合長 関内一郎　会計 秋山実

平市飲食業会　会長 金子松男　副会長 加藤武久次　〃 鈴木菊次

社団法人　平医師会　会長 鈴木正男　副会長 竹林貞吉　〃 三井五郎

平地区大工組合　組合長 渡辺喜知光　副組合長 馬場正二　〃 大垣勇　外組合員一同　事務所 平市仲町14

平市会議員　金古政通　福島県平市旧城跡 電二九九

平市会議員　町田亀治　福島県平市神宮町 電六八四

平市会議員　志賀伝吉　福島県平市神谷

平市会議員　会川伊重　福島県平市久保町 電八一七・二二三

平市会議員　小野栄一　福島県平市四丁目 電九一五

平市会議員　佐藤友寿　福島県平市神谷

永野新聞店　永野孝夫　福島県平市才槌小路 電四八・五三七

時津山後援会　会長 岡田政次郎　福島県平市十五丁目 電五五七

平市会議員　渡辺昇　福島県平市草野駅前

神戸霜降牛肉専門店　合名会社 緑屋　社長 大塚駒太郎　福島県平市二丁目 電五三九・七九四

平地区米穀卸売協同組合　理事長 片寄保　福島県平市 電五一八・五六二・八〇三

磐城興業株式会社　取締役社長 磯崎隆次　常務取締役 茂木茂　平市佃町三 電297

東部建設工業株式会社　取締役社長 岡田不二　電話 1176・1513・336

平地区食肉商業協同組合　平市・常磐市・内郷市・磐城市・四倉町・好間村　組合長 大塚駒太郎　副組合長 深谷喜八

皆様明けまして　お目出度う御座居ます　鈴木助産所　鈴木ミエ　平市田町 電788

磐城通運株式会社　取締役社長 斉藤昌平　専務取締役 北郷徳助　平市田町 電2280

小野崎産業株式会社　取締役社長 小野崎義己　福島県平市材木町 電1199

平競輪一日から

A級選手ズラリ揃えて

昨年は六億円売上ぐ

平市財政難救済の為の競輪は三年間の準備をはじめ昨年四月から開催されたが、平を除く四箇所で名城競輪を開催するなどますます発展している。平競輪は去る二十六年二月に戦災都市復興母体の一環として開設され、年を追って競輪は名を知られるようになり、またたく間に大きな収益を示して来た。この事業のおかげで平市の財政は大いにうるおい、小中学校の増設、道路改修など、この収益で市の各種事業はどんどん推進されている。

昨年一月から十二月までの発上げをみると開催以来の発上げを見せるなど順調にゆき、三十一年度より約一億上廻った六億一千百十八万円、そして七千五百七十六万余円という莫大な純利益をあげた。

今年の第一回正月平競輪は前節一、二、三の三日間、後節五、六、七の三日間にわたって開催されるが、例年行っているファンサービスは四月の八周年記念競輪があるため行わないことになっている。出場メンバーをみると前節はA級選手、豊田茂相沢昭司、上条啓示、佐藤喜知夫、五十嵐栄治選手など四十名女子は谷和子、小林寿久子、和田喜、小沢君子選手ら四十名、後節は B級から田中松男、飯野昭一、田中繁雄選手など四十名、女子が久野啓子、布川ひら江、船岡幸江、田中米子、山田仲江選手など四十名の一流選手が出場することとなっている。

名刺交換会

平市主催の恒例新年祝賀名刺交換会は一月一日午前十時から市公会堂本館で。

三浦光一シヨー

内郷市金扇荘商会では来たる一月二十一日市浅野記念館三浦光一、筑紫寄子ら一行二十名を招き歌謡大会を行う。

常磐毎日
発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
営業部専用 1、210
編集部専用 1、269

賀正
明けまして
お目出度う
ご座居ます
本年もよろしく
割烹 大貞
平 電413・1993

東北一の国際港

陸上施設の充実急ぐ

無尽蔵に近い石炭、天然ガス、石灰石などの地下資源、さらに海水を利用した金属マグネシウム塩化カリ工業、木材パルプ工業など豊富な資源の活用をバックに、革命的な繁栄を打ちたてた「未来図」これが常磐総合開発である。昨年は低品位炭活用の目的から四十七億の巨費を投じて三十一年に着工した東洋に誇る火力発電所が完成したのを始め、商港小名浜に待望久しかった二万トン級船姫路丸がエジプトからりん鉱を積んで入港するなど、国際港への華々しいスタートを切ったが、更に本年度は電力と共に工業化への推進力として早期開発を強く望まれていた高崎ダムと飯川水路が二十一億三カ年計画の巨費を投じて着工される様か臨海密しい小名浜商港も四月までには一万トン級船の上屋と海水浴場の埋立てを完成、その間目を一新する。未開の無産として県、国の直轄施設に取りあげられた常磐地帯と入れ替ろうとしたゆまぬ胎動をつづけているわけだが、以下港湾、水利、工場用地造成、地下資源などをめぐる開発の「未来図」をのぞいてみよう。

炭田地帯として日本有数の石炭をはじめ石灰石などの地下資源を掘えさらに深う大な二大森林地帯をバックにもつ本県唯一の商港小名浜を最優先的に推して将来は国際貿易港たしようという計画はさる二十九年県費で一万トン埠頭の着工以来、急速にすべり出し、昨年暮には日本郵船所属姫路丸（一万四百五十トン）がエジプトのコシヤ港からリン鉱石二千トンをつんで港入りしたのを皮切りに大型外航船や航貿物船が続々入港、未完成の国際貿易港としてクローズアップされてきた。さらに高崎ダムの建設、また常磐共同火力発電所の第二期工事の完成と共に電源開発により日平送電線の強化で豊富に安い電力が供給可能となり、それに飯川水利開発など常磐地区は京浜阪神北九州の工業地帯をしのぐ条件を備え名実ともに飛躍的な発展が約束されている。

このため県小名浜港務所と運輸省第二港湾建設局では三十三年の商港建設計画を立案、県に予算要求を行うとともに運輸省の直轄工事で行う事業に対しては本庁の予算要求に本腰を入れ小名浜港を中心とした一大工業地帯の完成に努力をかけている。

県小名浜港務所と運輸省第二港湾建設局の計画によると、県単独事業はクレーンの増設など三億六千六百三十七万円、国費直轄事業は沖防波堤の延長など三億七千八百十四万円でこれが完成すれば、すでに着工している二万トン埠頭の上屋、来春完成する海水浴場の埋立とともに国際貿易港として面目をととのえるわけで期待されている。

まず県事業としては現在あるクレーンと同じ機械式平引込み式（六万トン埠頭）のものを一億三千万円で増設する。これが完成すれば一日三千二百トンの船積みが処理できる。既設の三千トン埠頭には工事費二百四十万円で千百五万メートルの防波堤を建てる。また現在同工事事務所から借りているクーグ・ポート（水先案内船）を六千万円で百トン、六百馬力のものを新造する。さらに海水浴場埋立地の両側に石油配分基地として幅百二十メートル、延長百三十メートルの埠頭を七百四十万円で新設するほか、三崎地内を二千万円で埋立てる。さらにこれとは別に補助事業として工費三千七百五十万円（半額国庫負担）で一万トン埠頭と三千トン埠頭を結ぶ道路の舗装工事をすすめる構想もある。

一方直轄工事は沖防波堤を百メートル延長（幅十一メートル）するのに一億七千万円を見込み、さらに一万トン埠頭の両側、日本水素付近に向じような二万トン埠頭を新設する計画で幅百二十五メートルを延長百七十メートルのうち三十三年度は六十七メートルの護岸工事を行う。工事は次年度に持越すと予定。石油配分基地のドルフィン船つなぎクイ三基も九百万円で新設する。港内航路のしゅんせつは土砂一十七万三千立方メートルで七千五百十四万円を予定、三崎地内の岩盤しゅんせつにも九百万円を投じて四千五百立方メートルを開さくする。

このほか民間事業では小名浜臨港鉄道が総工費千五百八十五万円で臨港鉄道幹線の延長工事を計画しており三月ごろから着工する予定になっている。そこでこの工事が完成すると面目を一新した小名浜港は現在までの日本水素、呉羽化学化成、常磐炭礦、高萩パルプなどを主とした、中共、台湾、エジプトなど外国貿易、北海道を中心とした内航船だけでなく、日立地区の機械輸出港にも活躍、さらに会津地方の県材料搬出、また輸出産業などの国内外の製品販路に利用されるほか中通りの食料搬出しとして活用されることになり一九五八年の小名浜は建設の夢さき高らかに大きく変ぼう面目一新した近代的一大商港が建設途上にある。

四百万坪を目標

工業用地造成も計画

工場建設の絶対的条件となる工業用水と廃棄物処理の問題は、現在の常磐地区は国でも昨年ダム建設、港湾建設、国道建設、天然ガス開発に三億二百万円の予算をつぎこみ、常磐地区を網羅に都市ガス、セメント工業、砂鉄工業、パルプ工場など二大工場地帯を実現させようとしている。しかし折角開発ができても肝心の工場用地がないため地元常磐総合開発期成同盟会ではさきに五百万坪にわたる「工業地帯立地条件整備計画」案を作製して県、建設省に早期建設を運動していたが、この度県では砂丘地、不用木毛の土地などに四百万坪の「常磐鉱工業地帯整備事業中工業用地」を造成する計画を発表、建設の第一九五八年の第一歩として磐城市薄原川流域地区に総工費一億八千四十万円で八万二千坪を造成、工場誘致にのり出すことになった。整備される主な地区は次の通りである。

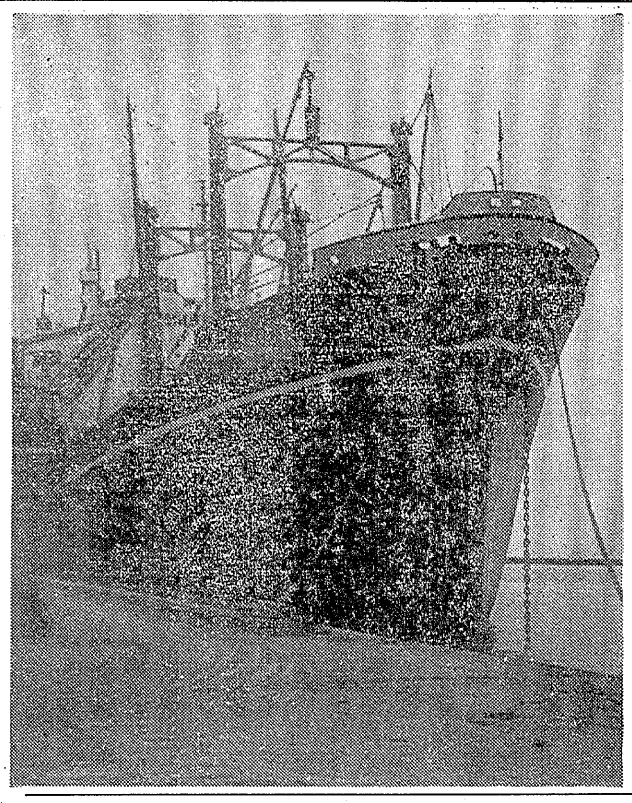
小名浜地区　工業用地四十五万坪を埋立て整地して現在操業中の旭化成、新日本化学の飛躍的拡張計画を進めると共に海水を利用した機械塩、これから出た廃ニガリを活用して年産五千トンの金属マグネシウム塩加カリ製造工場を建設、また砂鉄を利用した砂鉄工業、チタンスラックスによる年産二千トンの金属チタン工場を誘致するほか石炭を利用して無尽蔵にしかも安い電力と石灰石を使って年産十万トンのカーバイト工場原子力利用関連工業としてアイソトープを応用した水産食品工業を起す計画

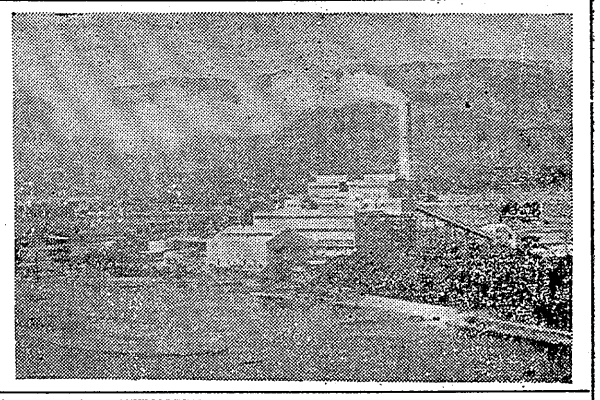
勿来地区　佐糠一帯の砂丘地などを整地、埋立て常磐共同火力発電所で燃している低品位炭の燃焼石炭ガスから年産十二万トンのセメントを製造、また低品位炭から東京方面への送送都市ガスも計画、この資金が五十九億四百万円になっている現在背後ターンなどを生産している呉羽化成、化学でも拡張計画をしており、さらに第二期工事として将来は合成繊維と尿素肥料製造工場の建設が予定されている。

夏井地区　夏井川河川を利用して広葉樹からなるセミケミカルパルプを生産する計画で建設費七億五千万円の工場誘致をはかるほか製氷能力に換算して五百十五トンにのぼる季節的大漁の魚価の安定をはかるため水産冷凍冷蔵貯氷施設を三億円で建設する。

金山地区　ここを整地して誘致した工場の住宅施設をつくる計画になっているが、このほか整理をする土地は湯本地区、綴地区、四倉地区にそれぞれ予定され、これらの工場用地造成とともに総合開発の力ギとなる交通網、工業用水、港湾施設などを五カ年計画で開発しようとするもの。

常磐地区の平命的な発展の原動力となるものに天然ガス、石炭がある。地下に横たわって開発がまたれていた天然ガスをめぐる熱い争も昨年九月ピリオド、一応石油系ガスに軍配がとつたこのたび二重鉱区問題を抱えた手倉山台通産局に試掘権申請をしていた日本水素江戸川化学などが昨年八月一日から磐城市走廊地内に一号井を開さくしたのを皮切りは勿来市錦田地区三件、同市黒須野地区に一件を申請、現在のコツバー炉の試験操業だけを将来は一日十万立方メートルのガスを導入して会社全体としての天然ガスの高度利用、肥料以外の部門への総合利用を計画している。さらに吉何炭鉱炭鉱では鉱区から自噴している最盛期二十二億立方メートルといわれるガスを家庭用に活用しようと平市の東部ガスと契約、すでにパイプの敷設工事にかかっているなど事実上のガス開発を行っているほかガス開発百三十件を申請してガスと石炭が共ついている二重鉱区の解決は昨年暮出された通産省通ちょう案によると、石炭廃棄物から百メートル離れた場合は石油鑛者、石炭廃棄の場合は炭鉱と決め、トラブルの少いところから順次操業を許可する。

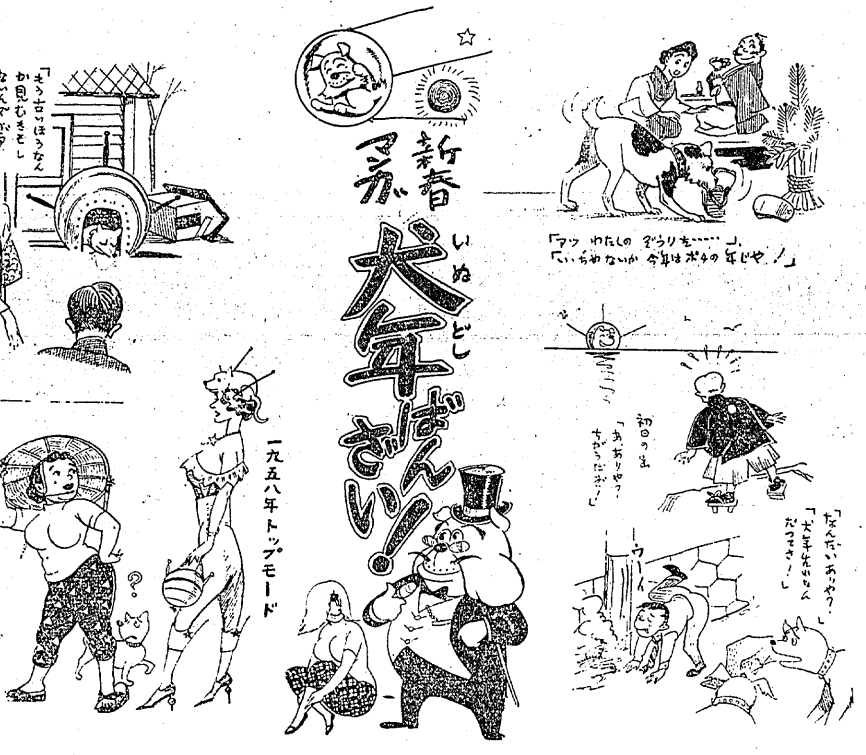




写真説明　（上）臨海する小名浜（下）火力発電所

五年計画で廃もれたガスを新時代のエネルギーとして許可する方針をとることになった。

そこでガスか石炭かをめぐって宙ぶらりんにあつた二重鉱区はこれで一応解決のメドがつき、今年には三十億円の資金でメタノール工場を建設しようとしている江戸川化学などの開発許可もスツキリするものとみられ地下ガスを資源にした化学工場都市ガスの建設はようやく新しい第一歩を踏み出すことになつた。

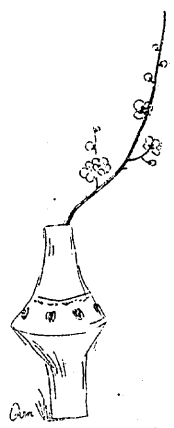


昭和33年 1958年
謹賀新年

昨年中は色々と御愛顧を賜わり有難く厚く御礼申上げます
本年も相変りませず御引立の程を伏して御願い申上げます
昭和戊戌元旦
じゃんがら
趣味の和菓子　みよし
田町店 電691 銀座店

謹賀新年
優雅な支那の伝説は、いま銘菓平餅となって、みなさまの茶の間の話題をよんでいます。サンデー毎日が「まさに一級品」と折紙をつけた銘菓平餅を今年もまた相変らず御愛顧下さいませ。
松月堂
平市銀座街 電206・2206
待つときに、待たれるときに胸おどらせる松月の喫茶
お子様方の名所となった松月の喫茶、ことしもどうぞご来店下さいませ。
松月の喫茶
平市三田小路 TEL 1188
みなさまの茶の間とお台所に直結する小名浜の松月は全店正札つき、お宅の家庭経済を明るく楽しくする奥さま方のお店として、本年も相変らずお引立て下さいませ。
松月
磐城市定西 TEL 974

賀正
あけましておめでとうございます



銘菓 中最高品
本舗 平凡
平市駅前 電509

有名商店繁昌かるた

い 一度きた客 二度三度
市川パン店
平市中央通り 電九三六番
平市三十米通り 電一八一六番

ち 論よりしようこ 美人のオシャク
バーロンシヤン
平市田町六九番地

り 春夏秋冬客足たへぬ 糸のおろしは ハシモトヤ
ハシモトヤ糸店
平市銀座街 電一四番

ぬ 日本一生産を誇る コレダ号
三和商事株式会社
平平二丁目 電一九三八番

る ほんとに良くきく 堀の良いクスリ
堀薬局
平市二丁目 電三三六番

を 平和の琴や六段の 最中の味をかみしめる
平凡
平市駅前 電五〇九番

わ 私にも洋服 似合う時代かな
渡辺良平洋服店
平市二丁目紅小路 電一五三番(呼)

か 買物上手は我が家の自慢 呉服はなんでも 二丁目のかみや
かみや呉服店
平市二丁目 電二五六・二〇一四番

よ 予算実績 まゝならず
ウチワ・カレンダー 嘉見家
平市新川町二五 電一二九五番

た タイル風呂 元朝に酌む盃も
趣味の陶器・タイル 武陶器店
平市一丁目 電三三九番

れ レデーとマンボで チヤツ〜〜〜
れんが
平市仲見世 電一〇四八番

そ そろって良い品 並ぶ洋品店
相馬屋洋品店
常磐市桜木町 電二一〇番

と 東京に平も 負けぬパンの味
東京堂パン
平市才槌小路 電一一〇八番
平市三十米通り 電一五九九番

ち ちら〜〜と雪道 走る千葉タイヤ
千葉タイヤ
平市新川町 電七八番

ね 根本の時計で 今年も早おき
根本時計店
平市二丁目 電六〇七番

む 村山に静かに 老の読書かな
村山書店
平市中央通り電一〇〇六番

む 抜けぬ柱も 陳列次第
沼知スタジオ改め 光映堂スタジオ
常磐市湯本裏町 電一六四番

る るすい番電気の 下の針仕事
電光社
平市三十米大通り

ら らんぷの下で 酒の味
らんぷ
常磐市湯本三函 電四二八番

く くる客がみんなで たゝく舌づゝみ
お食事のデパート 不二屋
平市中央通り 電八八六・一七五〇番

ま まねいが誇る 甘太郎焼
真根井商店
平市銀座街 電一〇二五番

つ つた本の湯の香に ひたる二人仲
つた本
常磐市湯本三函電一〇四・四二四番

け 髪をゆうなら研美院 腕の自慢と新流行
研美院
平市三丁目 電一三四八番

ま 老いてます〜〜 のれん貫録
大塚
平市三十米大通り 電七七番

な なかむづまじく食堂へ 子供を連れた夫婦連れ
伊東牛めし
平市駅前 電一〇二二

こ 紺ののれんに 誇りの味覚
食堂 ことぶき
平市新川町 電一九七四番

ゆ 有楽ならでは味わえぬ チャンポンの味
有楽
平市一丁目（聚楽館裏）電一七二三番

う 儲け後から サービス第一
もなみ
平市仲見世 電一八四五番

せ セキ止めの薬は 瀬尾とキメておき
瀬尾薬局
平市才槌小路 電五五三・二二一四番

め 眼鏡ばかりは 値段じや買えぬ 店の信用と設備から
玉屋眼鏡店
平市二丁目 電九一〇番

え 口にとろりと寿司の味 江戸前腕の見せどころ
江戸川
平市才槌小路 電一〇二二番
平市紅小路 電一四五六番

ほ ほんとに良くきく 堀の良いクスリ
堀薬局
平市二丁目 電三三六番

れ レデーとマンボで チヤツ〜〜〜
れんが
平市仲見世 電一〇四八番

る るすい番電気の 下の針仕事
電光社
平市三十米大通り

む 村山に静かに 老の読書かな
村山書店
平市中央通り電一〇〇六番

や ヤマカらしさが お店の自慢
ヤマカ洋品店
平市二丁目 電六〇五番

て 手に取って見れば たまげる 格安品の良さ
てんぐや履物店
平市平和通り 電一六七三番
平市田町 電一九五九番

み 皆さまがよく 買に来るよるお肉
三二三屋
平市田町並木通り 電三三番

ぶ 洋服ぢやあ知らぬ人ない 平市の鈴勘の店で あいましよう
鈴木勘氏商店
平市一丁目 電一六三八番
平市平和通り 電七三三番

そ そろって良い品 並ぶ洋品店
相馬屋洋品店
常磐市桜木町 電二一〇番

を をまえにも晴着を 一枚買って着せ
小野栄呉服店
平市四丁目 電五一五番

う 魚清へ一度来て みな味じまん
新味の魚清
平市平和通り 電六三三番

ま まねいが誇る 甘太郎焼
真根井商店
平市銀座街 電一〇二五番

あ 朝の挨拶 客より先に
あるが
平市銀座街 電三三三番

え 仕入おさえて売方安く 今に変らぬ三百年
宍戸屋
平市四丁目 電二一五番

京 京の品に負けぬ 平の三都屋かな
三都屋洋装店
平市二丁目 電一七一〇番

ど どうぞ 良い品 安く
ドンキ商会
平市中央通り 電一六七七番

さ さかえる店 は客本意
さかいや本店
平市六丁目 電四八五番

え えびす顔客に 親切乗り心地
加藤自転車商会
平市長橋町 電一六七七番